

令和3年度第2回北海道独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会
北海道職業能力開発促進センター函館訓練センター部会開催概要

- 1 開催日時 令和4年1月20日（木） 10：00～11：30
- 2 開催場所 北海道職業能力開発促進センター函館訓練センター 101教室
- 3 主な議題
 - ・令和3年度事業実施状況について
 - ・令和4年度事業実施計画について
 - ・その他

4 議事経過

資料に沿って事務局から説明を行った後、意見交換が行われた。主な意見は以下のとおり。

- ・函館管内の雇用情勢は少し回復傾向にはあるが、まだまだ厳しい状況が続いているため、これからもポリテクセンター函館と連携を図りながら函館管内の雇用情勢に取り組みたい。
- ・ポリテクセンター函館はコロナ禍の状況においてもしっかりと業績を上げている点が心強い。今後も密を防ぐ等感染拡大防止にご協力いただきたい。
- ・機構の名称どおり、高齢・障害・求職者に対する雇用支援をしていただき、とても心強く思っている。函館市としても地元への定着や雇用のマッチングを重視した対策を講じており、女性に焦点を当てた就職支援セミナーの実施を行っていることから、今後もポリテクセンター函館との協力体制を維持し、女性求職者の雇用支援を行いたい。
- ・在職者訓練のオーダーセミナーについて、事業主や企業等に情報提供・広報展開を考えている。
- ・道南地域においては事務職を希望する求職者が多く、近年のコロナ禍においてさらに突出しているように見受けられるが、企業における事務職の求人は減少しているため、就職マッチングが厳しい状況にある。生産性向上人材育成支援センターの業務におけるDX（Digital Transformation）対応の生産性訓練について、道南地域の多くの企業においてはDXとはどのようなものか、どのように導入すればよいか等を学ぶ機会も少ないため、重点的に当該訓練の広報及び周知をお願いしたい。
- ・当社では、子供の学校の送迎等で勤務の開始時間を遅くする、短くする、また、勤務時間の8時間を切りわけて、求人を行うことで求職者が働きやすくなるような取組を行っている。ポリテクセンター函館から企業側に対し、「働き方を工夫する事で採用に結びつく」という取組の必要があることの意識づけ、認識してもらうための声掛けやセミナーの実施等を検討いただきたい。
- ・事業所では、一つの仕事を専門で行うことが得意な単能工は多いが、近年の人材不足のため、単能工より多能工が求められていると感じていることから、新設された「ものづくり機械科」の訓練では、就職する前に多能工の体験・経験をおこなうことで多能工として就職する意識づけに取り組んでいただきたい。
- ・コロナ禍の中でデジタル化が進んでいるが、ポリテクセンター函館の事業の基本は人材育成だと思っているので、大変貴重な事業を行っていることを再認識するとともに、今後もより一層充実した事業を展開していただきたい。

令和3年度第2回北海道独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会
北海道職業能力開発促進センター函館訓練センター部会委員名簿

松浦 俊彦	(座長)	北海道教育大学函館校キャリアセンター函館校センター長
佐藤 昌利		連合北海道渡島地域協議会会長
竹内 正幸		函館商工会議所事務局長
嘉堂 聖也		北海道中小企業家同友会函館支部函館支部長
小西 義人		函館建築工業協同組合理事長
高山 則夫		北海道機械工業会函館支部支部長
杉本 秀司		函館公共職業安定所所長
菅野 則彦		北海道渡島総合振興局産業振興部地域産業担当部長
小林 利行		函館市経済部部長

(敬称略)